

本邦における急性心不全急性期治療と予後との関係性に 関する多施設レジストリー研究

急性心不全(Acute heart failure syndrome: AHFS)は本邦における入院の最も多い原因の1つである。しかしながら、慢性心不全に比べ AHFS に関する研究はまだ不十分であり、その本邦における実態・治療は明らかではない。また、特に治療に関してこれまでのランダム化比較試験を含む急性心不全の研究の多くは急性心不全にて入院後 24-48 時間以内というのが登録基準であったことから、急性心不全の救急部(Emergency department: ED)での治療を含む超急性期の治療に関しては不明な点が多い(1)。本研究では AHFS の患者が ED に到着してからの急性期の管理に特に照準をおき、多施設レジストリーにてその実態を明らかにし、かつ予後との関連まで検証する。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。